

# 私たちの力で沼津駅の高架化を実現しよう



# かけはし

## 主な記事

- 沼津駅周辺総合整備事業の進捗状況報告……………(1)
- 主張 夢のあるまち“ぬまづ”……………(1)
- 現地レポート 掛川駅周辺土地区画整理事業の視察見学会に参加して……………(3)
- 報告 沼津駅高架化事業を考える……………(4)
- 会の動き……………(4)

編集・発行／沼津駅の高架化を実現する市民の会 〒410沼津市御幸町14-5(沼津商工会議所内) TEL<0559>31-1111(代)・FAX<0559>31-1115

## 沼津駅周辺総合整備事業 〈平成八年度進捗状況報告〉 「輝く都市・沼津」を 目指して

沼津市が今後とも静岡県東部の雄都としてふさわしい「輝く都市・沼津」を目指していくためには、人々を引きつける魅力にあふれた個性豊かなまちづくりを行っていく必要があります。

そのためには、鉄道高架事業をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業によるまちの活性化が必要となってまいります。

沼津市では、沼津駅周辺総合整備の先導的事業として、国鉄清算事業団より取得した沼津駅北拠点施設整備用地への「多目的展示イベント施設」の建設を計画しており、県東部における広域的な経済・文化の交流拠点としての活用が期待されています。

そこで、市民の会事務局では、沼津駅周辺総合整備事業の平成八年度の進捗状況等について市に取材をしましたので、市民の会の活動報告と共にお知らせします。

### 多目的展示 イベント施設 〈事業の概要〉

〈将来に向けて、最適な施設整備の方向性を検討〉

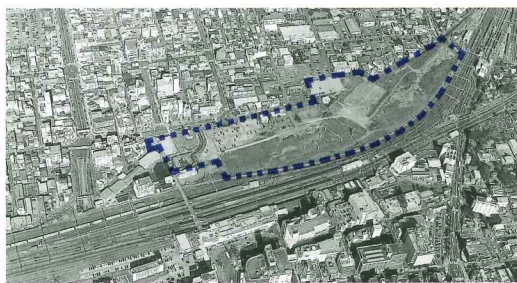
いよいよ、本年度には、広域拠点機能の拡充を目指す沼津駅周辺における事業の第一歩として、「多目的展示イベント施設」を沼津駅北地区に建設することになった。

この施設は、広域的な経済、文化の交流の場として、県東部地域活性化のための大きな推進力になるものと期待されている。

この施設の建設用地である沼津駅北国鉄清算事業団用地は、これまで県・市・地域振興整備公団の三者で分割取得することとなっていたが、平成九年三月に、県の土地開発公社と市の取得が既に完了し、残りの用地についても、地域振興整備公団が平成九年度に取得する予定となっている。

沼津市の第二次総合計画第三期基本計画において、三つのリーディング

度を想定している。構造としては、当面の有効利用を考え、本体部分は鉄骨造りとし、屋根部分に膜構造形式を採用した建物が検討されているが、膜自体の耐用年数が、既ね十年ということから、この施設を使用しつつ、利用状況等のデータを考察するなどで、将来に向けて最適な施設整備の方向性を検討していこうとしている。



沼津駅北国鉄清算事業団用地

多目的展示イベント施設の建設は沼津市にとっては初めてのことであり、展示イベント誘地等の課題はあるが、この施設ができることにより、従来県東部地域で開催ができなかった大規模な展示会・見本市・各種大会・文化的催し物等の開催が可能となることから、その使用及び誘客の対象を県東部地域を中心に考えているが、市内及び近隣市町村はもちろんで、幅広い地域の方々に有効活用してもらおうと考えている。

また、この施設の建設により生まれてくる波及効果は、展示・見本市等の開催により、直接関連する業界の販売力の増強や、新たな関連産業の創出、催し物開催時における集客により発生する飲食等の消費行動の増加等が挙げられる。

このような波及効果を最大限に生

## 主張 夢のあるまち 「ぬまづ」

市民の会副会長  
南山 和聖



春夏秋冬、その四季の中にそれぞれの味わいを見せてくれる私達のまち「ぬまづ」。

そして駅周辺の整備により、大きく変わりつつある私達のまち「ぬまづ」。御用邸記念公園、香貫山の整備等、人と自然の調和も進み、駅周辺の街並みも、東部の中核市としての色合いを一段と濃くしてきています。そして駅の高架化、駅北地区の開発、道路整備、土地区画整理事業等、魅力と活力にみちたまちづくりが、官民一体となって現在取り組まれています。しかし、この私達のまち「ぬまづ」に、将来の夢を描いている人は、果してどれ程いるのでしょうか。多くの方が、変わり行く姿に目を見張っているのが現状ではないでしょうか。でも本当のまちづくりを進めていくためには、多くの方が共に将来のぬまづの姿を描き、その夢を実現するために目標をたて、一歩一歩確実に進めて行くのが理想だと思います。それが多くの方々の協力を得て事業を進めていく方策でもあると思います。その夢もただ事業の完成したところを描くのではなく、事業が完成したことにより、どの様にまちや生活環境が良くなり、そして確実に夢に近づいているかを捕らえて語っていかなければいけないのではないのでしょうか。

私達は、現在の自分達のためのまちづくりを望んでいるわけにはありません。自分達の子ども、孫の時代に、皆が喜んで楽しく生活できる、そんなまちを考えているのです。だからこそ、私達の子、孫の時代にまちがどう変わっているか、そんな夢

とロマンの中で、現在何が必要なのかを考え、前へ進めていかなければいけないと思います。行政も、一つの事業を進めるに当たっては、単に完成図を示すのではなく、その先にある将来のぬまづをもっと私達に語ってほしいのです。子や孫の時代の教育環境や生活環境も含めて、事業の必要性を訴えていかなければ、多くの方々の賛同を得ていくのは難しいのではないのでしょうか。

現在進んでいる駅周辺総合整備事業についても、そこには多くの夢が詰まっています。この事業の完成により名実共に東部の中核市としての機能が備われば、必然的に人が集まり、にぎわいのまちづくりにつながります。そして商工業の振興、それは私達のまち「ぬまづ」の発展です。当然まちの発展の中で教育環境も充実されていくでしょう。その中で育った子ども達が、夢のあるまちを誇りに思い活躍の場として選んでくれることでしょうか。ぬまづの輝ける未来を担う子ども達のことを考えて進めて行けば、必ず実現できることだと思います。将来のまちづくりを考える中で、夢とロマンは欠かせません。同じ事を進めるにも、現在の事だけを考えているとその範囲の中でしか考えられなくなります。沼津駅の高架化事業も将来への一つの過程だと思えます。この様に将来にかかる事業には、一部に大きな犠牲を強いることがあってもはいけません。多くの方が、同じ夢に向かい協力してこそ「夢のあるまちぬまづ」が実現するのです。

私達の子孫に「夢のあるまちぬまづ」を伝えるための第一歩の事業。沼津駅の高架化を実現させるために共に一歩前へ踏み出しましょう。

私達の子孫のために!!

沼津市PTA連絡協議会会長

※

み出すためには、市民及び地元企業者自らがこの施設を有効活用していく取り組みを積極的に展開していく必要があるのではないだろうか。

### 沼津駅周辺総合整備事業によるまちの活性化

二十一世紀に向かって、沼津市が今後とも静岡県東部地域の中核都市としての役割を担い、発展を続けていくためには、都市としての機能の向上と魅力づくりを積極的に進めていく必要がある。

県東部の商都として発展してきた沼津市の中心市街地の商業は、かつての勢いを失いつつある。

中心市街地の大型店の撤退も相次ぎ、平成六年に十字屋が、平成七年にシヅオカヤ、ニチイが撤退した。

このままの状態が続くと、中心市街地から徐々に商店が減り、人も集まらなくなり、外からの企業進出もほとんどない発展性のないまらになってしまう。

かつて沼津の商業が栄えていたように、これからも静岡県東部の中核都市として発展を続けていくためには、都市機能の向上と魅力づくりを積極的に進めなければならぬ。

ところが、沼津市の未来のまちづくりを考えていくうえで解決が急がれる問題が三つある。

一つ目は、鉄道が市街地を南北に分断している事である。

沼津市の中心部は、鉄道を横断する幹線道路が少ないため、道路の混雑や渋滞が著しく、市民生活に大きな障害となっている。

そのうえ現在のガードは急カーブしていたり、急な坂の上に交差点があったりして大変危険な状態である。

また、国道414号の三ツ目ガードは、高さ制限により大型バスや消防ハシゴ車などが通行できず、特に災害時の緊急大型車両は迂回をすることになるため、防災活動にも大きな障害となっている。

歩行者は薄暗く狭いガードを遠回りして通らなければならず、楽しくまちを歩くという雰囲気からは程遠い環境といえる。

二つ目の問題は、まちの中心部である駅周辺には、商工業施設や住宅が混ざりあい、小規模の老朽化した建物が密集して建て詰まり現象をおこしていることである。

市民のためのまちづくりといった点からみても、土地の有効な利用といった点からみても、これは良い状態とはいえない。

三つ目の問題は、国鉄清算事業団用地の跡地をどう活用するかという点である。

国鉄の民営化に伴う鉄道用地の整理・合理化により、駅北口に約五・六ヘクタールの跡地が生まれた。都心部にこれだけまとまった空き地が生まれるのはこれまで予想されなかったことであり、これからは二度とあり得ないことである。

沼津のまちづくりにとって、千載一遇のチャンスともいえるようなこの土地の活用によって、新しい時代にふさわしい都心整備の実現も夢ではなくなっている。

こうした問題に対応して、市中心部の交通混雑を解消し、まちの再整備と活性化を図り、県東部の中核都市にふさわしい都心地区を作り上げていくことが、今まさに求められている。

このような様々な背景の中から浮上してきたのが、鉄道高架化を含む「沼津駅周辺総合整備事業」によるまちの活性化である。

それでは、この「沼津駅周辺総合整備事業」の内容及び進捗状況について各事業毎に見てみよう。

### 沼津駅周辺総合整備事業の概要及び進捗状況

〔鉄道高架事業〕  
・高架化区間(予定)

J R東海道本線 約四キロメートル(大岡団地付近)片浜付近)  
J R御殿場線 約一・五キロメートル(大岡団地付近)沼津駅)

・移転する鉄道施設  
車両基地(片浜地区へ移転予定)  
貨物駅(原西部地区へ移転予定)

鉄道高架事業は、県事業として進められており、市は平成七年度調査主体である県と共に、阪神・淡路大震災による被害を教訓に、主要構造物である高架橋本体、道路・河川横断部の橋梁等の設計を行ってきた。

平成八年度には各種の協議、調整を行ってきた結果、J R東海への概略設計の委託を平成九年二月に行うことができた。

このことは、沼津駅周辺総合整備事業にとって、まさに事業実現への大きな一歩を踏み出したことになる。

鉄道高架事業の都市計画決定への取り組み

現在、都市計画決定を目指している鉄道高架施設及び新車両基地、新貨物駅は、根幹的都市施設である。平成六年四月に都市計画決定がなされた道路・土地区画整理事業の計画も鉄道を高架することが前提の計画であり、早期に鉄道高架事業の都市計画決定をする必要がある。

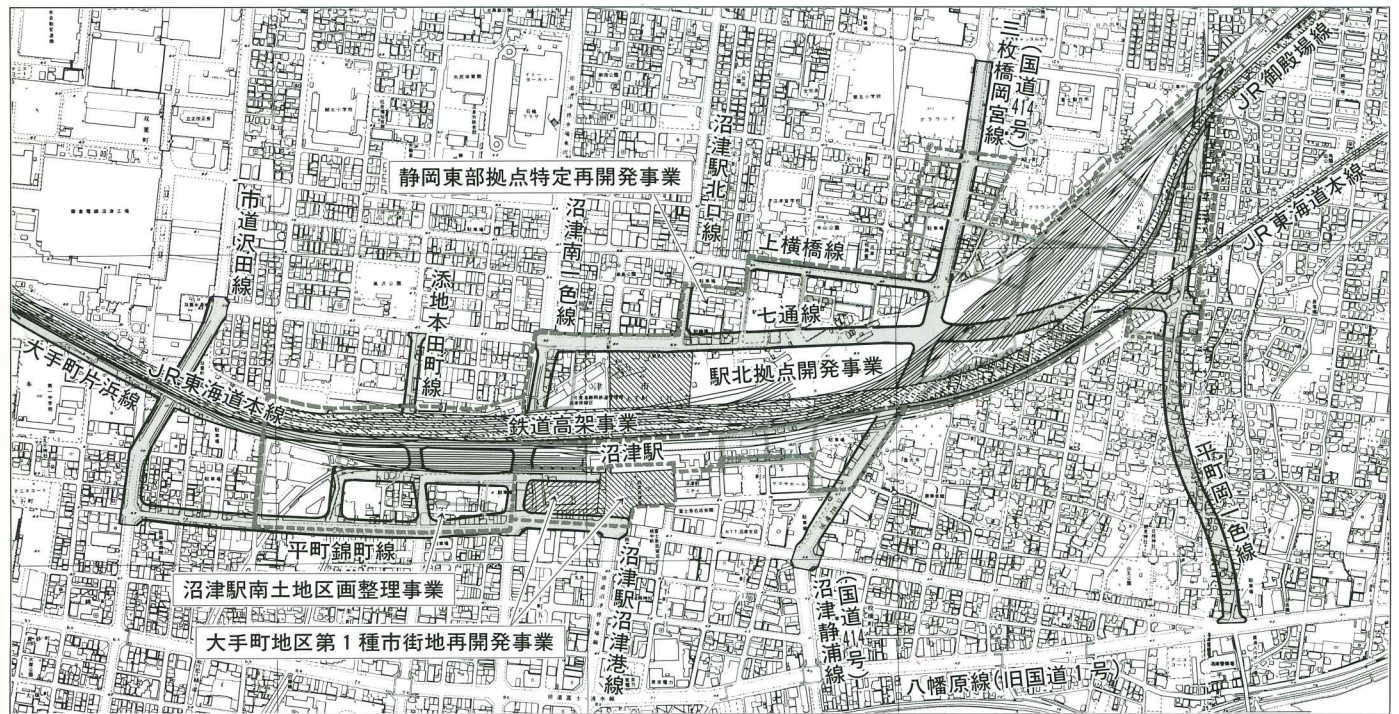
県・市では、平成九年度中の都市計画決定を目標としている。

そのために、鉄道事業者が行う概略設計の作業及び鉄道事業者との協議調整を短期間に済ませることができよう、県・市一体となって、鉄道事業者との意見調整を図っていくこととしている。

地権者への説明会については、鉄道高架本体及び移転先の新車両基地、新貨物駅の配線計画案が策定され次第、示すこととしている。

〔土地区画整理事業〕  
①静岡東部拠点特定再開発事業(地域振興整備公団施行)

# 沼津駅周辺総合整備事業計画



凡例	-----	区画整理区域	▨	駅前広場	▨	鉄道高架予定地
	■	区画道路	▨	都市計画道路	▨	市街地再開発

土地区画整理事業(駅北地区二十  
七・七ヘクタール)及び拠点施設の  
整備  
②沼津駅南土地区画整理事業(沼津  
市施行十二・五ヘクタール)

平成六年四月に都市計画決定され  
た土地区画整理事業は、概ねJR東  
海道本線を境に、駅南地区を沼津市  
が、駅北地区を地域振興整備公団が  
施行する。

このため、平成七年度から現地事  
務所を設置し、市と公団が協調し  
て、事業への取り組みを進めてい  
る。  
市では、平成八年度に現地測量等  
の調査を実施するとともに、施行区  
域内の地権者を対象に、事業の仕組  
みなどに関する説明や話し合いを進  
めてきた。

そのなかで、地権者の意向をより  
計画に反映していくために、まちづ  
くりについての勉強会として先進都  
市(掛川市)の視察会を実施した。  
平成九年度は、事業認可に向けた  
引き続き話し合いや事業計画調査を  
進めていく。

公団では、平成八年度に居住地域  
や商業地域のより有効な土地利用の  
あり方や、公共施設の整備など、ま  
ちづくりに関する調査を実施した。  
平成九年度は、市と同様に事業認  
可に向けて引き続き事業計画調査を  
行い、地権者とまちづくりについて  
の話し合いを進めていくこととして  
いる。

【駅北拠点開発事業】  
•拠点施設等の整備  
沼津駅周辺地区は、県東部拠点都  
市地域の中核として、駅北拠点施設  
整備用地を中心に都市基盤整備と併  
せ、新たな都市機能の集積を計画し  
ている。

平成九年度には、その先導的施設  
として、市では、この駅北用地に多  
目的展示イベント施設の建設を計画  
している。

【市街地再開発事業】

大手町地区第一種市街地再開発事  
業(沼津市施行一・九ヘクタール)  
(事業の目的)  
この事業は、沼津駅周辺総合整備  
の先導的事業であり、以下の三つの  
事業目的がある。

一つ目は、駅前広場を拡張整備す  
ることにより、バス、タクシーのタ  
ーミナル機能等を向上させ、市民が  
利用しやすく、わかりやすい交通結  
節点としての充実を図ることである。

二つ目は、駅南地区の商業活性化  
のための核的施設となる高度情報発  
進機能を備えた都市型商業施設を導  
入することにより、地元専門店と共  
生し、周辺商業地の賑わいの創出を  
図ることである。

三つ目は、中央ガード南側を改良  
し、南北交通の渋滞緩和を図り、併  
せて明るく快適な歩道整備を行うこ  
とである。  
平成九年度は、効率的な施設整備  
を目指した都市計画の見直し作業を  
実施する。

【関連道路整備事業】

三枚橋岡宮線、平町錦町線 他  
沼津市における道路計画や道路整  
備については、道路は都市構造の骨  
格を形成し、市民生活の向上や都市  
機能の拡充を図るための基本的な施  
設」と考え、環状線と放射線を軸と  
し、総合的道路体系の確立と整備を  
進めていくこととしている。

このような考え方にに基づき、沼津  
駅周辺総合整備事業の関連道路整備  
については、以下の方針により、段  
階的に行っていくこととしている。

(1)道路交通需要、土地利用等の動向  
や、関連する各種事業との連携を  
勘案し、緊急性及び事業効果の高  
い区間から、着実な整備を進める。

(2)道路整備の手法を十分検討し、道  
路の整備と併せ沿道の良好な市街  
地が形成されるように配慮する。

(3)国、県と綿密な連携を図り、整備  
財源の確保に努める。

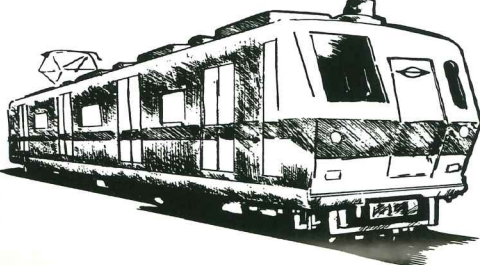
以上が事業の概要及び進捗状況で  
ある。

沼津市では、未来を展望し着実な  
歩みを進めていくために、駅周辺地  
区が抱える問題を解決し、二十一世  
紀に向けたまちづくりとして、沼津  
駅周辺総合整備事業を重点施策に位  
置づけ、国や県などの支援を受けな  
がら、その実現に取り組んでいる。

本事業は、沼津市の将来を築く上  
では是非とも成し遂げなければならない  
事業であり、二十一万沼津市民は  
もとより、県東部百二十万人の人々の  
熱い期待が込められている。

沼津駅周辺地域にかつての活気を  
取り戻すためには、市民自らが自ら  
のまちをよくしていくために、様々  
な努力をし、行政と一緒に汗を流す  
ことを積極的に進めていくことが必  
要ではないだろうか。

このような考え方のもと、私たち  
市民の会も、一日も早い事業の実現  
を目指し、引き続き支援活動をし  
ていきたいと考えている。  
市民の皆さんにも、事業への一層  
のご理解とご支援をお願いしたい。  
(文責 商工会議所・山室)



現地レポート

「掛川駅周辺土地区画整理事業の  
現地視察会」に参加して



当婦人会が設  
立されて三年。  
その活動として  
まちの活性化に  
ついて関心を持  
ち、行動するこ  
とに意を用いて来た。その一つが沼  
津駅の高架化を中心とした駅周辺の  
総合整備事業である。南北市街地分  
断解消を目指す鉄道高架化の効用は、  
すでに完成した浜松・静岡の両市を訪  
れるとそのすばらしさがわかる。二  
月五日、沼津商工会議所が開催した  
「沼津駅周辺総合整備事業進捗状況  
について」の報告会に出席し、改め  
て駅周辺高架化事業が周辺に及ぼす  
影響の大きさに痛感させられた。事  
業完遂には痛みは伴うもの。これを  
お互いの努力でクリアしなければ、  
魅力のあるまちにはならないし、ス  
プロール現象による地盤沈下は食い  
止められないのではないかと。

新幹線の窓に忽然と姿を現した掛  
川城。ユニークな駅舎。新幹線駅開  
設に当たっては種々な風評を耳にし  
た。傑出した為政者により素晴らしい  
飛躍を続ける街、掛川市には是非  
一度行ってこの眼で街を見、経緯を  
知りたいと思っていた。二月十五日、  
「沼津駅の高架化を実現する市民の  
会」主催の掛川駅周辺土地区画整理  
事業の現地視察会に当婦人会として  
参加することで、その夢が実現した。  
バスを降りて驚いた。そこには突然  
平成の現代を三百年もタイムスリッ  
プした戦国時代を錯覚させるものが  
あった。大手門の出現、聳え立つ三  
層の天守閣、そして町のたたずまい  
であった。文化会館での市街地整備  
課課長補佐の経過説明は、実践を体



まちづくりにひと役買う掛川城前にて

験した者の的を得た感動すら覚える  
ものであった。昭和四十七年より始  
まった駅前土地区画整理事業、地区  
内九十五%、四百四十戸の家屋移転  
に関する地権者の換地指定。新幹線  
新駅の開設は榛村市長の遠大・高邁  
な構想と決断による事業で、莫大な  
資金源の発掘・借財など種々の難問  
に多くの市民からの反対があった  
由。信念を抱く市長は新駅開設によ  
る経済効果、メリットを反対する地  
域住民に力説。納得を得る迄の話し  
合いを重ね、千回以上に及ぶ説明会  
に深夜を分かたず出向いたと言う。  
東名高速道路インターチェンジの開  
成、東部工業団地「エコポリス」の  
完成。掛川天守閣復元工事等多岐に  
わたる大規模なプロジェクトのエネ  
ルギッシュな推進は当初反対だった  
住民も己の受益に目覚め、五百年以  
来の城下町としての文化の系譜豊か



事業の概要説明を聴く(掛川市役所)

な歴史を残さねばの郷土愛「ヤラマ  
イカ」の住民パワーが行政と一体化  
し、プロジェクト推進の原動力とな  
ったという。又、都市条例を制定し  
土地の投機化を防ぐ施策もとられた  
と聞く。大規模プロジェクトの完成  
は、新たな道路の開通を生むと共に、  
郊外型大型店の進出を促進させた。  
これに伴い個店の魅力に乏しい商店  
街は、地盤沈下をし衰退を来した。  
しかし、住民の発意のもとに出来あ  
がった掛川城・駅舎・大手門停車場  
を結ぶ地域は、近代的公共施設と歴  
史的城下町との調和を図る建築的な  
努力をした結果、歩行者の回遊性は  
増し、地元市民も観光客も楽しく散  
策し、買い物も出来る、賑わいを演  
出する平成の城下町として、都市を  
見事に誕生させることとなった。  
有意義な視察を終わり、市民とし  
て己のおかれた分野に於いて明日の  
沼津づくりに努力したいと思う。

沼津商工会議所婦人会 会長 赤堀 一江

報告

まちづくりセミナー  
沼津駅高架化  
事業を考える

前大岡地区連合自治会長 勝 呂 義 明



去る三月二十八日に「沼津駅の高架化を実現する市民の会」の「まちづくりセミナー」がホテル沼津キャッスルで開かれました。

毎年、この種のセミナーの案内はいただいていたものの、諸般の都合により出席がかなわず、正式の会合に参加したのは今回が最初であります。

鉄道高架については、大岡地区でも二、三の町内が該当する関係で、その自治会長からも要望が出されておりました。今回の沼津駅周辺整備事務局杉山課長からの現状報告を受けて、いくつかの疑問が解明されるように思いました。

その第一は、地下にしたらという考えに対し、三島駅との距離を計算すると勾配が急角度になり不可能だということ。又巨額な費用が予想される等の説明がありました。平成五年頃連合会の中でも、こうした意見を持っていた自治会長もありました。

第二に何故高架が必要か、ということですが、立地差により交通渋滞の解消、再開発事業により土地の有効的な活用、それが沼津市の活性化になる。説明を聞いて「なるほど」と思った次第であります。

第三に多くの市民が高架化についてどう考えているか、ということですが、東海道線の沿線の方々を勿論この線上に住居する方々を含め、意識なり関心に、大きな差があるように思われました。広く市民の考え方が反映するように検討してほしいと思います。せっかくのセミナーでしたので、参加人数が少ないように思いました。

一方鉄道高架に伴うさまざまな問題が山積みしております。特に現在居住されている方々は、生活の基盤が根底から崩されることです。永年に亘り生活し、強い愛着を持つておられることが大切であります。私も昭和四十年代、国一の計画線に該当し、土地も住居も撤去という経験があります。そうした痛みを知ってほしいと思います。

又、計画案が発表されているにも拘らず、大岡団地の一角にマンションが完成しております。建物の確認申請許可は、高架化計画とは関係がないのでしょうか。一寸疑問に思うところです。

駅周辺総合整備事業に伴う国の補助は五〇％、県が二五％、市が二五％と聞いております。多額な市税なりが投入されるわけでありませう。そうした意味から、広報紙「かけはし」の紙面を十分に充実させ、市民全体の理解と協力が得られるよう大いにPRしていただきたいと思っております。

予算の関係で無理かも知れませんが、カラー刷りにするか、イラストを入れるとか、色々な角度から読みやすく解りやすい紙面にしていただきたいと思っております。

終わりに「災害に強い安全なまちづくり」をテーマにした平井先生の講演は、とても有意義でした。阪神大震災の生々しい現場を視察された中で、貴重な体験をもとに話されただけに、切実感がありました。「井戸かまど、ポット、便所があれば怖いものなし」。

その他参考になることが多くありました。自分の命は自分で守ることの大切さを、改めて深く認識しました。そして駅周辺総合整備事業も講演のテーマを生かしたものでなければと、痛感した次第であります。

大岡地区社会福祉協議会長

会の動き

〇定時会員総会

六月十四日、ブケ東海。平成七年度事業報告及び収支決算、平成八年度事業計画及び収支予算承認講演「にぎわいとゆとりのあるまちづくりとは」

講師 CANDIDゆとり研究所 所長 野口 智子氏

〇正副会長会議

六月十一日、総会提出議案検討  
九月九日、駅周辺総合整備事業の取り組み状況及び県知事等への陳情について協議

十二月十七日、駅周辺総合整備事業の取り組み状況及び県知事等への年末年始挨拶について協議

〇先進地の視察

二月二十五日、掛川市、掛川駅周辺土地区画整理事業についての現場説明及び現地視察、三十七名参加

〇沼津駅周辺総合整備事業北地区の現地視察会

十二月十三日、事務局員十一名参加  
〇まちづくりセミナーの開催  
三月二十八日、ホテル沼津キャッスル、参加者八十五名

〇沼津駅周辺総合整備事業の取り組み状況について  
説明者 沼津市都市計画部沼津駅周辺整備事務局  
開発課課長 杉山 智氏  
講師 長岡造形大学  
教授 平井 邦彦氏

〇陳情

九月二十六日、県庁を訪ね、沼津駅の高架化をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業の推進について、石川県知事・県議会議長・副知事・出納長・総務部長等に陳情、沼津市長・市議会正副議長・市議会鉄道高架化促進特別委員会正副委員長及び委員・市民の会正副会長・常任委員代表等、総勢三十九名が参加



平井教授の講演に聴き入る (ホテル沼津キャッスルにて)



石川県知事に事業促進を陳情 (知事室)

〇沼津駅周辺総合整備事業三者懇談会の開催  
十二月二十六日、沼津駅。県知事等への陳情後地元へ戻り「市・市議会、市民の会」による懇談会を行い、陳情結果をもとに今後の対応について協議

〇広報啓蒙活動  
広報看板の掲出 市営香貫駐車場西側壁面と沼津商工会議所前柱側面に掲出  
〇事務局会議  
第一回 五月十六日 (於 商工会議所)  
平成七年度事業報告・決算について  
平成八年度事業計画・予算について  
平成八年度定時会員総会について  
第二回 五月三十日 (於 商工会議所)  
平成七年度事業報告・決算について  
平成八年度事業計画・予算について  
平成八年度定時会員総会について  
第三回 九月三日 (於 商工会議所)  
正副会長会議に向けての事前検討について  
第四回 十一月二十一日 (於 商工会議所)  
今後の事業の実施について  
第五回 十二月十三日 (於 沼津駅)  
沼津駅周辺総合整備事業の取り組み状況について  
県知事等への年末挨拶について  
沼津駅周辺総合整備事業現地視察について  
平成八年度第四半期事業について  
第六回 三月二十七日 (於 商工会議所)  
「かけはし」十一号の発行について

編集後記

昨年六月開催の「市民の会」定時会員総会で、大橋会長は「沼津市が県東部の拠点都市になるために、市民が大団結しよう」と声を大にして呼びかけた。また、同会顧問の桜田市長と川口市議会議長はともに事業の推進に向けての堅い決意を表明した。「市民の会」はこの一年、この呼びかけと決意に沿って活動を展開

した。調査の実施・先進地の視察・まちづくりセミナーの開催・県知事等への陳情等である。八年度も事業は進展した。「鉄道高架事業」は駅周辺総合整備事業の中心の事業で、本年二月には県とJR東海との間で高架本体の概略設計業務の委託契約が締結された。また、駅北国鉄清算事業団用地も中央部は県土地開発公社、東側は沼津市が取得し、西側も地域振興整備公団が平成九年度取得することになった。さらに、駅北拠点開発事業ではその当面の利用計画として、沼津市がこの駅北用地に多目的展示イベント施設を九年度に建設することを決めた。移転する新車両基地や新貨物駅の計画、駅南・駅北地区の土地区画整理事業も準備が順次なされている。

事業の完了には十余年の長期な歳月と、巨額の投資が必要である。五十・百年の計として、世代を超えた息の長い取り組みが求められている。一步一歩着実な事業の具体化の情報や資料が日々示されて来ると、夢や望みや願いが現実味を帯びて、私たちに迫って来るから不思議である。今号は、「駅周辺総合整備事業」の進捗状況取材し特集している。また「市民の会」一年の歩みの事業も報告されている。こうした現状を踏まえ、将来を展望しつつ私たち「市民の会」は、事業の実現を目指して引き続き市、市議会と密接な連携を保ち、これを支援して行きたいものである。(K・Y)

編集委員(順不同)  
田代 功 伏見 博行  
高橋 誠 浜村 信之  
井原 英雄 浅井 名実人  
荻生 昌平 山室 公義

